

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

LAVIOR AURA

取扱説明書

本ドキュメントは、LAVIOR AURAの取り扱い方法および使用方法について説明するものです。

LAVIOR AURAをご利用になる前に本ドキュメントをお読みいただき、
各機能の理解や操作の際にお役立てください。

DOCUMENT MANUAL

Author	Makoto Hiroki
Date	2026-9-10
Revision	01
Contents number	AURA-01
Document class	Public

REVISION RECORD				
Date	No.	Modifications	Approving	Writer

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

0. Revision Contents

Revision	Date	Section	Current status and principal changes since previous revision

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

免責事項

- ・本機器「LAVIOR AURA」は、個人が設計・製作した制作物です。市販製品と同等の品質、信頼性、安全性および動作を保証するものではありません。
- ・本機器の使用、接続、設定、改造等は、利用者ご自身の判断と責任において行ってください。
- ・本機器の使用または接続により発生した、接続機器の故障・破損、データの消失・破損、ソフトウェア上の不具合、その他の直接的・間接的な損害について、製作者は責任を負いかねます。
- ・本機器と組み合わせて使用するPC、周辺機器、音響機器、電子機器、ソフトウェア等についても、動作および互換性を保証するものではありません。
- ・本機器の仕様、ファームウェアおよびソフトウェアは、予告なく変更される場合があります。
- ・本機器をご利用いただいた時点で、上記内容をご理解いただいたものとします。

環境・廃棄に関する注意

- ・本機器は、RoHS指令への適合を目的として設計・製造されたものではありません。
- ・本機器には、はんだ、電子部品、基板材料等に鉛をはじめとする環境負荷物質が含まれています。
- ・本機器を廃棄する際は、一般ごみとして安易に廃棄せず、お住まいの地域の法令、条例および自治体が定める電子機器・電子基板等の処分方法に従って適切に処分してください。
- ・本機器を焼却、分解して投棄するなど、環境への悪影響が生じる方法で処分しないでください。
- ・廃棄方法が不明な場合は、はんどめいどふぁくとりWEBへご確認ください。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

中古品・転売品に関するポリシー

- ・はんどめいどふぁくとり(以下「当方」とします)は、中古品、転売品、第三者を経由して販売・譲渡された製品について、販売、流通、取引には一切関与しておりません。
- ・当方は、中古品および転売品の販売を正規の販売方法として認めておりません。
- ・中古品、転売品、譲渡品については、製品の状態、改造の有無、使用履歴、保管状況等を確認できないため、動作保証、品質保証、修理、交換、技術サポートその他一切のサポート対象外とします。
- ・中古品、転売品等に関するお問い合わせ、動作確認、真贋確認、購入後のトラブル等についても、当方では対応いたしません。
- ・中古品または転売品の購入・使用によって発生した損害、故障、事故、データ損失その他の問題について、当方は責任を負いかねます。
- ・サポートおよび保証は、当方が正規に提供した製品についてのみ、別途定める条件の範囲内で行います。

サードパーティ製品に関するサポートポリシー

サードパーティ製(認定品)

- ・当方が開発または利用を認定したサードパーティ製の制御アプリケーション、周辺機器、拡張機器等については、必要に応じてサードパーティ開発者と連携し、問題の確認および対応を行います。
- ・問題の原因が本機器側、サードパーティ製品側、または両者の組み合わせによるものかを確認する必要があるため、調査および対応にお時間をいただく場合があります。
- ・サポート範囲は、当方が認定した仕様および使用方法の範囲内に限ります。

サードパーティ製(非認定品)

- ・当方の事前承認または認定を受けていない制御アプリケーション、周辺機器、拡張機器、改造品等については、サポート対象外とします。
- ・非認定品の使用に起因する不具合、故障、誤動作、データ損失その他の問題について、当方は調査、動作確認、修正、保証その他の対応を行いません。
- ・第三者が独自に開発、改造、配布したソフトウェアまたはハードウェアについても、当方が認定していないものは同様にサポート対象外となります。
- ・非認定品の使用は、利用者ご自身の判断と責任において行ってください。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

将来の仕様変更およびサポート終了について

- ・本機器の仕様、機能、外観、デザイン、付属ソフトウェアおよび関連サービスは、予告なく変更される場合があります。
- ・製品、ファームウェア、ソフトウェア、関連コンテンツ等について、将来的に配布またはサポートを終了する場合があります。
- ・サポート終了または配布終了を行う場合は、可能な範囲で事前に当方のWebサイト等にてご案内します。
- ・配布終了後は、ファームウェア、ソフトウェア、ドキュメント、関連データその他の配布コンテンツを予告なく削除、公開終了または入手不可とする場合があります。
- ・サポート終了後は、不具合修正、更新、互換性対応、技術サポートその他の対応を終了する場合があります。
- ・将来のOS、ハードウェア、ソフトウェア環境等に対する継続的な動作および互換性を保証するものではありません。
- ・必要なファームウェア、ソフトウェア、ドキュメント等については、利用者ご自身で適切に保管してください。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

利用データおよびコンテンツについて

- ・本機器で使用、再生、変換、転送、保存その他の処理を行うデータおよびコンテンツについて、当方はその内容、権利関係および利用状況には関与いたしません。
- ・著作権、著作隣接権、ライセンスその他の権利によって保護されているデータやコンテンツを利用する場合は、利用者ご自身の責任において必要な権利または許諾をご確認ください。
- ・本機器を使用したことにより生じた著作権侵害、ライセンス違反、第三者との紛争、損害その他の問題について、当方は責任を負いかねます。
- ・本機器の提供は、第三者が権利を有するデータやコンテンツの無断利用、複製、配布、公開その他の行為を許可または推奨するものではありません。
- ・本機器を利用する際は、適用される法令、利用規約および各コンテンツのライセンス条件を遵守してください。

改造・複製品・不正利用に関するポリシー

- ・当方が提供するハードウェア、ファームウェア、ソフトウェア、アプリケーション、通信仕様その他の関連技術について、不正な複製、模倣品・海賊版の製造、販売、配布またはこれらを目的とした利用を一切認めません。
- ・リバースエンジニアリング、解析、改変その他の手段を用いて、当機器または当方の技術を不正に複製し、第三者へ提供、販売、配布する行為は禁止します。
- ・複製品、模倣品、海賊版、不正改造品等を確認した場合は、当方Webサイト等で注意喚起を行うとともに、必要に応じて認証方式、通信方式、ファームウェア、セキュリティ仕様その他の仕様を予告なく変更する場合があります。
- ・悪質な複製、販売、権利侵害その他の行為については、必要に応じて記録の保存、公開停止の要請、関係事業者への申告その他の適切な対応を行う場合があります。
- ・個人利用の範囲で行う改造については、利用者ご自身の責任において行ってください。ただし、改造後の機器については、動作保証、修理、交換、技術サポートその他一切の保証対象外となります。
- ・改造、不正なファームウェアの使用、非認定部品への交換等によって発生した故障、破損、事故、データ損失その他の損害について、当方は責任を負いかねます。
- ・改造品や複製品を、正規品であるかのように表示、譲渡、販売または配布する行為は認めません。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

利用上の総則・免責

本機器および関連するドキュメント、ソフトウェア、ファームウェア、技術情報等については、可能な限り正確な情報の提供に努めていますが、その完全性、正確性、安全性、継続性および特定用途への適合性を保証するものではありません。

電子工作、回路設計、プログラミング、ファームウェア更新、機器接続、改造等については、使用環境、接続機器、部品の個体差、設定内容、利用者の操作その他の条件により、結果や動作が異なる場合があります。

本機器および関連コンテンツの利用、接続、設定、改造、データの使用等は、すべて利用者ご自身の判断と責任において行ってください。

本機器の利用により発生した機器の故障、破損、データの消失、ソフトウェア上の問題、第三者とのトラブル、経済的損失その他の直接的または間接的な損害について、当方は責任を負いかねます。

また、中古品・転売品、非認定のサードパーティ製品、不正改造品、複製品、非正規ファームウェア等については、原則として保証およびサポートの対象外とします。

著作権その他の権利によって保護されたデータやコンテンツを利用する場合は、利用者ご自身で必要な権利および許諾をご確認ください。

本機器は個人制作による機器であり、市販製品と同等の品質、信頼性、安全性、長期的な供給およびサポートを保証するものではありません。仕様、外観、ソフトウェア、ファームウェア、配布内容およびサポート内容については、将来予告なく変更または終了する場合があります。

本機器を使用する際は、本ドキュメントに記載された注意事項および各ポリシーを確認し、安全に十分配慮したうえでご利用ください。

動作環境

・AURA HOST(アプリケーション)

Windows 10以降の64bit(x64)環境。

.NET 8.0 Runtimeがインストールされている必要があります。

USB 2.0以上およびインターネット接続環境が必要です。

・AURA(本体)

Micro USB通信ケーブルでPCへ接続します。

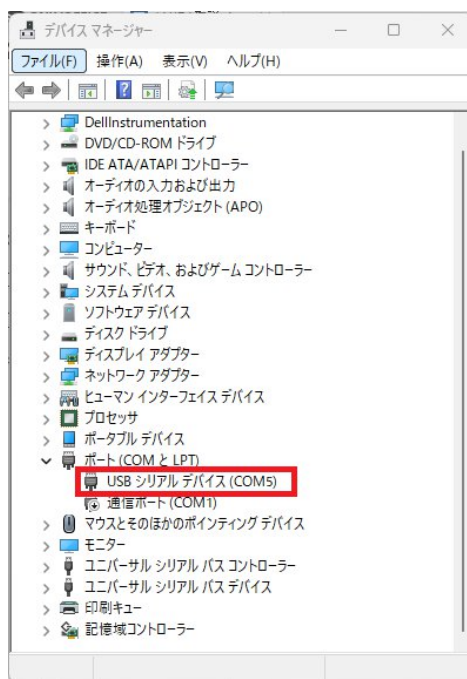
音声出力には3.5mmオーディオジャックを使用します。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

初回準備

当機器はWindows10以降のPCおよびタブレットにて動作いたします。
それ以外のOSおよびPCに関しては補償いたしかねます。

当機器はUSBシリアルとしてデバイスドライバに登録されます。
複数台接続済みPCに接続する場合はデバイスドライバでシリアルポート番号を事前に確認してください。



当機器 接続例、COM5として認識している。

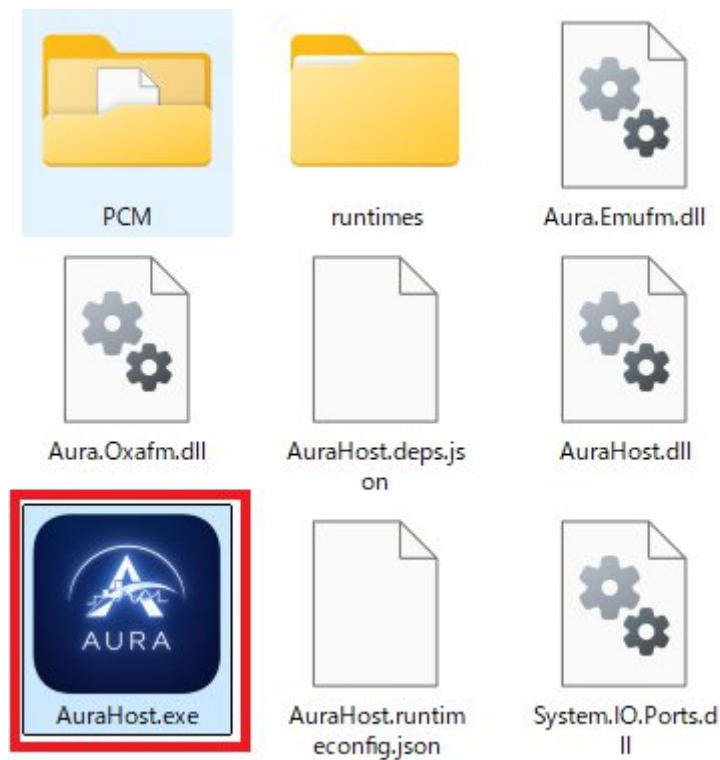
はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

■制御ソフトウェアの準備

はんどめいどふぁくとりWEBページ

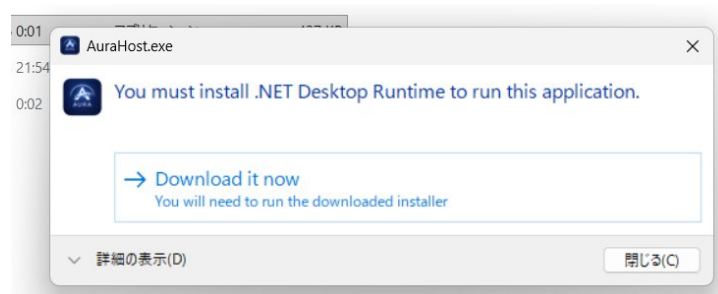
<https://hmfactory.jp>

LAVIOR AURAのページ内ホストアプリをダウンロードを行い
任意の場所に展開を行います。



AuraHost.exeを選択し実行します。

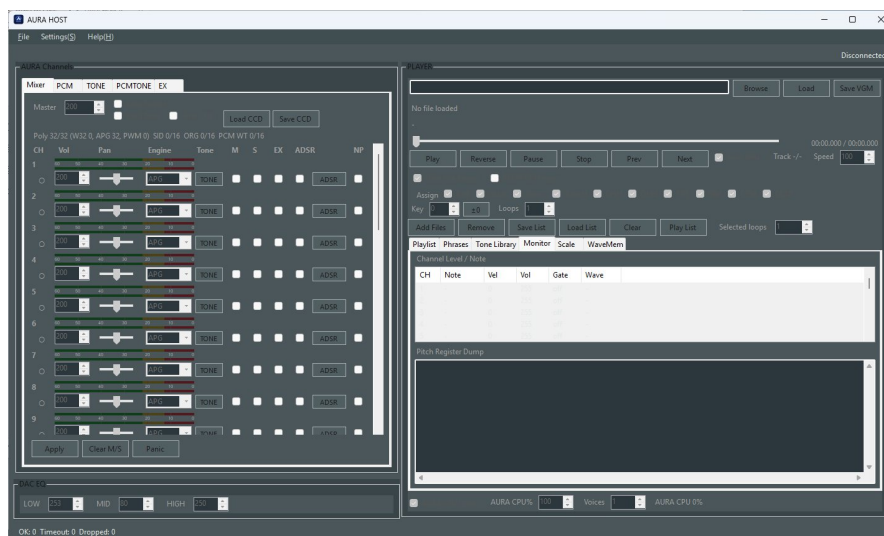
.net 8.0のランタイムライブラリがインストールしていない場合は以下のポップが表示します。
指示に従いランタイムをインストールを行い、再度起動してください。



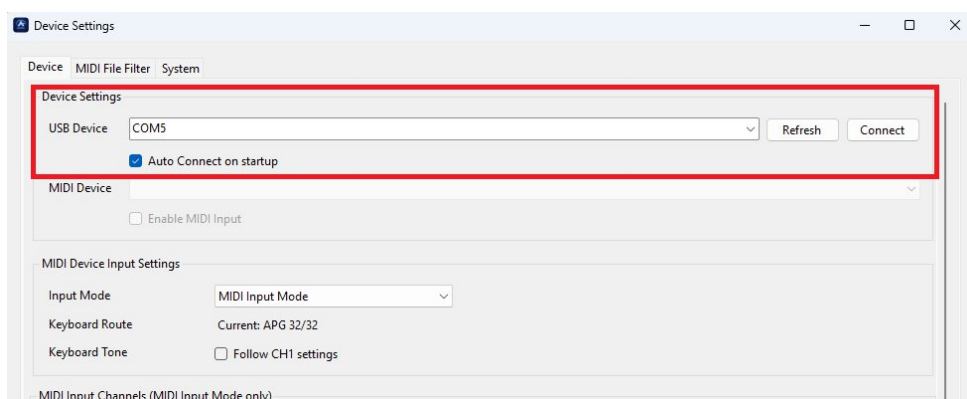
[.NET 8.0 \(Linux、 macOS、 Windows\) のダウンロード | .NET](#)

.NET デスクトップ ランタイムをダウンロードしてください。

オフラインインストールなどはマイクロソフト社のWEBページでご確認ください。



初回起動時は接続できません。
メニューバーから「Setups(S)」を選択し「Device settings...」を選択します。



Device settingsウィンドウ内の「Device」タブ内にあるDevice Settingsの項目を確認します。
「Refresh」ボタンが無効の場合は右側の「connect」または「Disconnect」を1回クリックします。

最初に「Refresh」ボタンをクリックし接続デバイスを更新します。
左側のコンボボックス「V」をクリックし先ほどデバイスドライバで調べたCOM番号を探し選択します。

下にAuto Connect on startupにチェックを入れることにより次回から接続されている場合は
自動接続します。

「connect」をクリックして接続します。

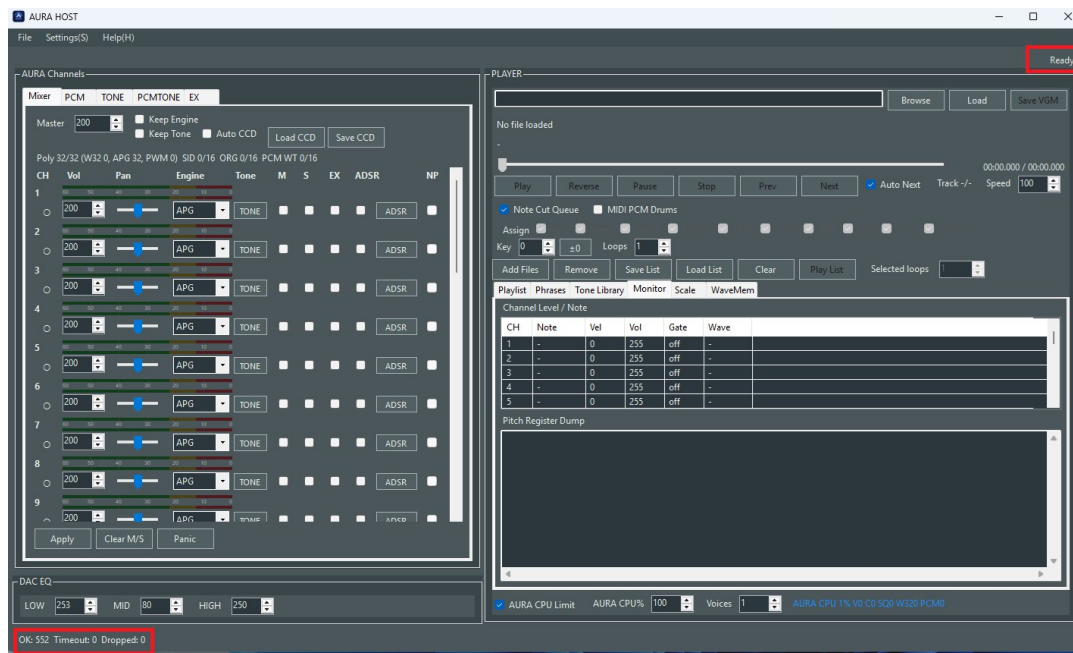
AURA本体のLEDのホタル点灯が早く脈動し始めます。

本体LEDが早く脈動し始めたらDevice settingsウィンドウを閉じて問題ありません。

※AURA本体 LED点灯パターン参照

AURA本体のLEDの脈動が接続時から変わらない場合は接続およびCOMポートを再度ご確認
してください。

接続してもLEDが消灯のままおよびLEDが点滅している場合はトラブルシューティングを読
んでください。



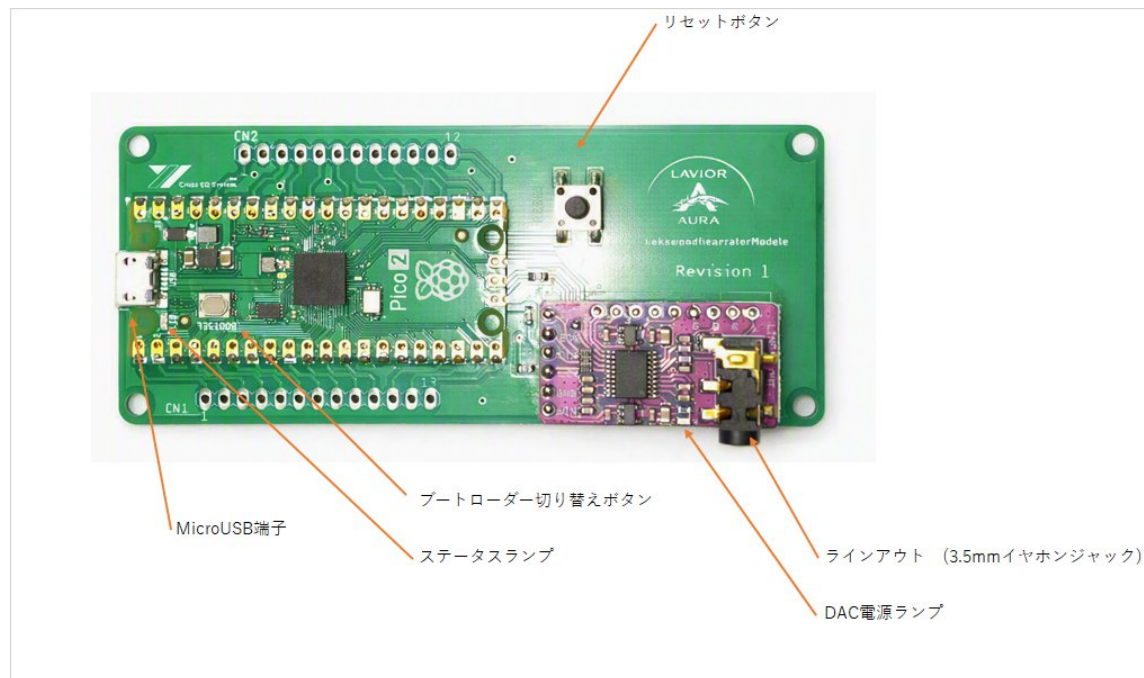
接続完了後、各種操作の有効化と右上に「Ready」
左下のOKのカウンタが進み始めます。

正しく接続され利用できる状態です。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

ハードウェア

※ MicroUSBケーブル 通信機能付きはあらかじめご用意ください



記載されていない箇所に関しては将来対応で現在は使用しておりません。

ステータスランプ動作

消灯 : 電源OFFまたは正しくファームウェア(動作プログラム)が動作していない。

緑点灯: 認証処理が行われていないCPUが取り付けられている。
※ 正規ルートで購入の際はサポートにご連絡ください。

緑遅くホタル点滅 : 接続待ち・待機状態。

緑脈動ホタル点滅 : 接続済み、動作中

緑点滅 : 内部エラー
※動作する場合がありますが内部のデータが破損している可能性があります。
本機をリセットを行い再接続を行い。操作をやり直してください。

○ むき出しの端子などありますが金属片や水分など触れないようにしてください。

MicroUSBコネクタは大変弱いです。接続中に引っ張ったり曲げたりしないでください。

スペーサー(足)を設ける場合は3mmのねじまたはスペーサーを使用してください。
基板表側に金属スペーサを使用することは保証いたしかねます。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

データ再生

AURAは以下のフォーマットを対応しております。

.vgm .vgz : VGM形式
.s98 : 暫定対応 (エミュレータ等で出力したファイルの再生は安定いたしません)
.mml : 暫定対応 ログインソフトMUSIC.COM準拠 (ツクールシリーズなど)
.fur : 暫定対応 frunance形式 (ワンダースワン・ゲームボーイ・PCE・YM2149のみ)
.wav : Windows標準コーディング 44.1Khzまで
.sdg : AURAデバッグ用
.mid : 最大32和音まで(16チャンネル折り返し)
.midi
.m3u : プレイリスト
.nsf : フル拡張音源構成及びDPCMのみのデータは再生保証いたしません
.sid : コモドール製音源用ファイル
.pd : アクアプラス P/ECEバイナリシーケンスデータ(専用形式)
.pmd : アクアプラス P/ECE PMDシーケンスデータ
.gb : ゲームボーイコンテナファイル
.hes : PCエンジンコンテナ形式
.gbs : ゲームボーイコンテナ形式
.kss : 暫定対応 MSXコンテナ形式
.ay : PSGロギングファイル
.asc : PSGトラッカーファイル
.flc : PSGトラッカーファイル
.ftc : PSGトラッカーファイル
.fxm : PSGトラッカーファイル
.gtr : PSGトラッカーファイル
.psc : PSGトラッカーファイル
.psg : PSGトラッカーファイル
.pt1 : PSGトラッカーファイル
.pt2 : PSGトラッカーファイル
.pt3 : PSGトラッカーファイル
.rsf : PSGトラッカーファイル
.sqt : PSGトラッカーファイル
.stc : PSGトラッカーファイル
.stp : PSGトラッカーファイル
.vtx : PSGトラッカーファイル
.ym : PSGトラッカーファイル
.yrg : PSGトラッカーファイル

同名ファイルで内部非対応の場合はロード時に正常にマウントせず再生いたしません。

※データは内部のデータ密度により正しく演奏できない場合があります。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

AURA スペックシート

音源エンジン構成

AURAは「構造複製型」の音源エンジンを採用しています。

各音源ごとに固定されたハードウェアチャンネルを持つ方式ではなく、1つの演算プログラムを基に、必要に応じて内部の音源インスタンスを生成・増減させることで複数の発音を行います。

AURAの音源は、APG・WAVE32・SID・PWM32・ORGなどを固定構成で使用するのではなく、CPU負荷の許す範囲内で、最大32チャンネルの中に各音源エンジンを自由に組み合わせて使用できます。

たとえば、APGのみで構成するほか、APG+WAVE32+SIDなど、用途に応じた複合音源構成での再生が可能です。

※各音源の最大和音数は、その音源を単独または十分なCPU処理能力が確保できる条件で使用情况の上限です。複数音源の併用時はCPU負荷によって実際の発音可能数が変化します。

APG (Advanced Programmable Generator)

最大32和音。

従来のPSG方式をベースに、内部に基礎波形テーブルを持ち、発音時に波形を加工して出力するプログラマブル音源エンジンです。

従来型PSGの矩形波を中心とした発音方式よりも柔軟な波形生成が可能です。

APG専用ノイズブロックを3基搭載し、それぞれ個別にパラメータを設定できます。

WAVE32 (波形メモリエンジン)

最大32和音。

波形メモリに登録された波形データを使用して発音する音源エンジンです。

WAVE32ノイズエンジンを搭載し、ノイズ処理数は使用する和音数に連動します。

SID

最大16和音。

Commodore SID音源の特徴を再現するためのシミュレーション音源エンジンです。

PWM32 (PWM音源)

最大32和音。

PWM (Pulse Width Modulation) 方式による音源エンジンです。

ORG (オルガン・シミュレーション音源)

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

最大16和音。

オルガン系の発音を目的としたシミュレーション音源エンジンです。

PCMチャンネル

最大10チャンネル。

AURA内部のパーカッション音源、PCM再生およびPCM-FM(FM音源エミュレーション)などで使用します。

複数のPCMチャンネルをAURA内部でミキシングし、多チャンネルDAC再生処理を行います。

PCM WT(PCMサンプリング音源)

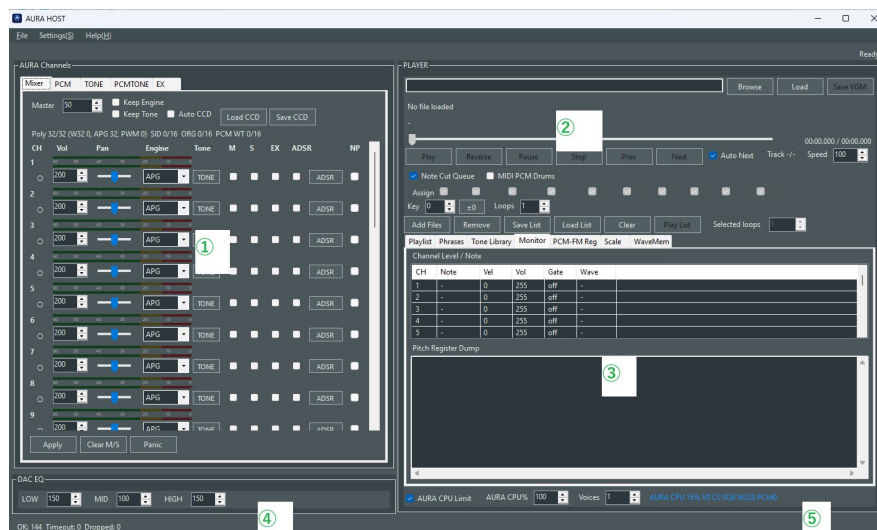
PCMサンプルデータを使用して発音する簡易サンプリング音源です。

サンプルのピッチ変更に対応しており、元のサンプルデータから異なる音程を生成できます。

高度なエンベロープ処理には対応しておらず、簡易的なPCM再生を目的としています。

サンプリングメモリ最大容量:940 KB

AURA HOST 各部の名称と機能



① チャンネル・ミキサー部

AURAの各音源チャンネルを設定するエリアです。

チャンネルごとの音量、パン、音源エンジン、音色、ミュート、ソロ、エフェクト、ADSRなどを設定します。

「Apply」で設定を反映し、「Panic」で全発音を停止できます。

② ファイルプレイヤー部

VGM等の対応ファイルを読み込み、再生するためのエリアです。

ファイル選択、読み込み、再生、一時停止、停止、前後曲移動、リピート、プレイリスト管理などを行います。

必要に応じてVGMファイルとして保存することもできます。

③ 音源・レジスタモニター部

AURA内部の音源状態を確認するためのエリアです。

各チャンネルのノート、ベロシティ、音量、ゲート状態、波形情報などを表示します。

また、PCM/FMLレジスタ、スケール、波形メモリ、ピッチレジスタ等の状態確認にも使用します。

④ DAC出力調整部

AURA本体から出力されるオーディオ信号の音質を調整するエリアです。

LOW、MID、HIGHの各帯域を調整し、簡易的なイコライザーとして使用します。

⑤ CPU・発音状態表示部

AURA本体の処理負荷および発音状態を確認するエリアです。

CPU使用率、CPU負荷制限、現在の発音数などを表示し、負荷状況の確認や調整に使用します。

補足として、画面上部のメニューは以下の用途です。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

「File」
ファイル関連の操作を行います。

「Settings」
AURA HOSTおよび本体に関する各種設定を行います。

「Help」
バージョン情報やヘルプ情報を確認します。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

① チャンネル・ミキサー部

チャンネル・ミキサー部では、AURAで使用する各音源チャンネルの基本設定を行います。

各チャンネルごとに、音量、左右定位、使用する音源エンジン、音色、ミュート、ソロ、エフェクト、エンベロープ等を設定できます。

「Mixer」「PCM」「TONE」「PCMTONE」「EX」の各タブを切り替えることで、用途に応じた設定画面を表示します。

「Master」では、AURA全体の出力レベルを調整します。

「CH」はチャンネル番号を表します。各チャンネルは個別に設定できます。

「Vol」はチャンネルごとの音量を設定します。

「Pan」は左右の定位を設定します。中央、左寄り、右寄りなど、チャンネルごとの出力位置を調整できます。

「Engine」では、そのチャンネルで使用する音源エンジンを選択します。APG、Wave系、PCM系など、利用可能な音源方式を割り当てます。

「TONE」では、選択したチャンネルの音色設定画面を開きます。

「M」はミュート機能です。有効にすると、そのチャンネルの発音を一時的に停止します。

「S」はソロ機能です。有効にしたチャンネルを優先して確認する際に使用します。

「EX」はチャンネルごとの追加機能やエフェクト関連の設定に使用します。

「ADSR」では、音量エンベロープの設定を行います。アタック、ディケイ、サステイン、リリース等を調整します。

「Apply」は、画面上で変更した設定をAURA本体へ反映します。

「Clear M/S」は、設定されているMuteおよびSolo状態を一括解除します。

「Panic」は、発音中の音を強制的に停止します。ノートが鳴り続けた場合や、動作確認時の緊急停止に使用します。

「Keep Engine」「Keep Tone」は、設定変更時やファイル読み込み時に、現在の音源エンジン設定または音色設定を維持するために使用します。

「Auto CCD」は、CCD関連設定を自動的に適用するための機能です。

「Load CCD」「Save CCD」は、チャンネル設定データの読み込みおよび保存に使用します。

画面上部の「Poly」表示では、現在使用している音源種別ごとの発音状況や発音可能数を確認できます。

このエリアは、AURAの音作りとチャンネル割り当ての中心となる設定画面です。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

② ファイルプレイヤー部

ファイルプレイヤー部では、AURAで再生する対応ファイルの読み込み、再生、停止、プレイリスト管理などを行います。

「Browse」では、再生するファイルを選択します。

「Load」では、選択したファイルをプレイヤーへ読み込みます。
パラメータ変更後、再読み込みの際に利用します。

「Save VGM」では、必要に応じて現在の内容をVGM形式で保存します。

「Play」は再生、「Pause」は一時停止、「Stop」は停止を行います。

「Reverse」は逆方向再生に使用します。

「Prev」「Next」では、曲混合ファイルやプレイリスト内の前後のファイルへ移動します。

「Auto Next」を有効にすると、現在のファイルの再生終了後、自動的に次のファイルへ進みます。

再生位置バーでは、現在の再生位置を確認できます。
※再生バー操作無効時は右側に寄ったまま再生します。

右側の時間表示では、現在位置とファイル全体の再生時間を確認できます。

「Track」では、現在選択されているトラック番号を表示します。

「Speed」では、再生速度を変更します。通常は「100」を基準として使用します。

「Note Cut Queue」は、ノート停止処理に関する制御を行います。

「MIDI PCM Drums」は、MIDIドラム情報をPCM音源へ割り当てる際に使用します。

「Assign」では、ドラムや各種音源割り当てを設定します。

「Key」では、再生時のキー変更を行います。

「Loops」では、ループ回数を設定します。

「Add Files」では、プレイリストへファイルを追加します。

「Remove」では、選択したファイルをプレイリストから削除します。

「Save List」「Load List」では、プレイリストの保存および読み込みを行います。

「Clear」は、現在のプレイリストをクリアします。

「Play List」では、プレイリストに登録されたファイルを順番に再生します。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

「Selected loops」は、選択したファイルまたは項目に対するループ回数を設定します。

このエリアは、単体ファイルの再生だけでなく、複数ファイルを連続して確認したり、VGMデータの動作確認を行うための中心的な操作部です。

ファイルプレーヤー部は

PCM-FM(FM音源シミュレーション機能)稼働中はテンポ変更、キー変更、逆再生操作は無効となります。

③ 音源・レジスタモニター部

音源・レジスタモニター部では、AURA内部で動作している各チャンネルや音源エンジンの状態を確認します。

「Playlist」では、現在の再生対象やプレイリスト情報を確認します。

「Phrases」では、登録されたフレーズデータや演奏パターンに関する情報を確認・管理します。

「Tone Library」では、音色データの参照や管理を行います。

Tone Libraryに収録または読み込まれる音色データの中には、各データの著作者または権利者に著作権が存在するものがあります。これらのデータを使用する際は、各データに定められた利用条件、ライセンス、著作権表示等を確認してください。

著作権のある音色データについては、原則として個人で楽しむ範囲で使用し、無断での再配布、販売、公開、転載、改変配布等を行わないでください。

Tone Libraryに登録されたデータの権利は、それぞれの著作者または権利者に帰属します。当方は、利用者が追加または使用する第三者制作の音色データについて、その権利関係を保証するものではありません。

「Monitor」では、各チャンネルの現在の発音状態を確認します。チャンネル番号、ノート、ベロシティ、音量、ゲート状態、使用波形等をリアルタイムに表示します。

「PCM-FM Reg」では、PCM音源やFM音源に関するレジスタ情報を確認します。音源の動作確認やデバッグ時に使用します。

「Scale」では、スケールや音程に関する設定・確認を行います。

「WaveMem」では、ウェーブメモリ音源等で使用している波形データやメモリ状態を確認します。

「Pitch Register Dump」では、音源に設定されているピッチ関連レジスタの内容を表示します。音程情報の確認や、VGM等のデータ解析・動作確認に利用します。

このエリアは、通常の再生操作だけでなく、音源の状態確認、音色データの管理、レジスタの確認、デバッグ用途などに使用する確認・管理用エリアです。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

④ DAC出力調整部

DAC出力調整部では、AURA本体から出力される音声の周波数バランスを調整します。

「LOW」では低音域、「MID」では中音域、「HIGH」では高音域のレベルをそれぞれ調整します。

各帯域を個別に調整することで、低音を強調したり、高音を抑えたりといった簡易的な音質調整が可能です。

なお、LOW・MID・HIGHをすべて同じように上げた場合は、周波数バランスはほぼ変化せず、全体の音量が上がる動作になります。

設定を上げすぎると、音割れやクリッピングが発生する場合があります。必要に応じて各帯域を調整し、適切な出力レベルで使用してください。

⑤ CPU・発音状態表示部

CPU・発音状態表示部では、AURA本体のCPU負荷および現在の発音状況を確認します。

「AURA CPU%」では、現在のCPU使用率を表示します。

CPU使用率が70%以上になると表示がオレンジ色に変化し、高負荷状態であることを示します。
CPU使用率が90%以上になると表示が赤色に変化し、処理余裕が少ない状態であることを示します。

CPU使用率が70%を超えた状態では、処理負荷の増大により音切れ、ノイズ、発音遅延、再生の乱れ等が発生する可能性があります。このため、70%を超える負荷状態での再生品質については保証いたしません。

「AURA CPU Limit」では、CPU使用率に応じた発音数の制限値を設定します。

指定したCPU使用率に達した場合、AURAは同時発音数を設定された和音数までに制限し、過負荷による音切れや動作不安定を抑制します。

「Voices」では、現在の同時発音数を表示します。

CPU負荷は、使用する音源エンジン、エフェクト、PCM処理、発音数などによって変化します。安定した再生を行う場合は、CPU使用率が70%未満となるように設定することを推奨します。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

ミキサー

ミキサーでは、AURAの各チャンネルに対する音量、定位、音源エンジン、音色、ミュート、ソロ、エフェクト、ADSRなどの設定を行います。

AURAでは最大32チャンネルを使用でき、各チャンネルごとに個別の設定が可能です。使用する音源エンジンや再生データの内容によっては、一部の設定項目が無効となる場合があります。

各チャンネル左側の白色インジケータは発音状態を示します。再生中は赤色に点灯し、発音が停止すると消灯します。

レベルメータは2段表示となっており、上段は現在の音量レベル、下段はベロシティを表示します。

「Vol」では各チャンネルの音量を設定します。

「Pan」では左右の定位を設定します。

「Engine」では、そのチャンネルで使用するAURA音源エンジンを選択します。

「Tone」では、選択した音源エンジンに対する音色設定を行います。

「M」はミュート、「S」はソロ、「EX」は拡張機能またはエフェクト、「ADSR」はエンベロープ設定に使用します。

「NP」は、FM音源データをAURA音源へ変換して再生する際に、そのチャンネルを強制的にノイズパートとして扱うための機能です。

再生データの仕様や使用している音源エンジンによっては、「Tone」「EX」「ADSR」「NP」など一部の操作が無効、または設定しても反映されない場合があります。

「Master」ではAURA全体の出力レベルを調整します。

「Keep Engine」「Keep Tone」は、データ読み込み時などに現在の音源エンジン設定または音色設定を維持するために使用します。

「Auto CCD」「Load CCD」「Save CCD」は、チャンネル構成データの自動適用、読み込み、保存に使用します。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

PCMタブ

PCMタブでは、AURA内部で使用するPCMチャンネルの音量、定位、ミュート、ソロ、および出力レベルを設定します。

PCMチャンネルは最大10チャンネル使用でき、PCM CH 1～PCM CH 10を個別に調整できます。

「Vol」では、各PCMチャンネルの音量を設定します。

「Pan」では、各PCMチャンネルの左右定位を調整します。

「M」はミュート機能です。有効にすると、そのPCMチャンネルの出力を停止します。

「S」はソロ機能です。有効にしたPCMチャンネルを優先して確認する際に使用します。

「Level」では、各PCMチャンネルの現在の出力レベルを表示します。再生中のPCM信号の大きさを確認するためのモニターとして使用します。

「Apply」は、PCMタブで変更した設定をAURA本体へ反映します。

「Clear M/S」は、設定されているミュートおよびソロ状態を一括で解除します。

PCMチャンネルは、AURA内部のパーカッション音源、PCM再生、PCM-FMなどで使用されます。再生データや使用中の音源機能によっては、一部のPCMチャンネルが使用されない場合があります。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

TONEタブ

TONEタブでは、各チャンネルの音色設定、試聴、および1周期波形の編集を行います。

上部では、対象となる行番号、WAVE32設定、ボイス番号、音源エンジン、ノート、ベロシティ、音量、パン、波形、デチューン等を設定できます。

「Row」では、編集対象となる音色設定の行を選択します。

「W32」および「W32 Apply」は、WAVE32音源に関する設定値の指定と反映に使用します。

「Voice」では、対象となるボイス番号を選択します。

「Engine」では、使用するAURA音源エンジンを選択します。

「Note」では、試聴時に使用するノート番号を設定します。

「Vel」では、試聴時のベロシティを設定します。

「Vol」では、試聴時の音量を設定します。

「Pan」では、試聴時の左右定位を設定します。

「Wave」では、使用する基本波形または登録済み音色を選択します。

「Duty」では、対応する音源においてデューティ比などの波形パラメータを設定します。

「Detune」では、基準音程からの微調整を行います。

「Play」「Stop」では、現在の設定内容を使用して音色を試聴・停止します。

下部の「1-Cycle Tone Editor」では、1周期分の波形を直接編集できます。

「Engine」では、編集対象となる音源エンジンを指定します。

「AURA CH」では、対象となるAURAチャンネルを指定します。

「Note」では、編集・試聴に使用するノート番号を指定します。

「音色名」では、作成または編集する音色の名称を設定します。

「編集元の音色」では、既存の音色を選択し、その波形を基に編集できます。

「新規作成」は、新しい音色データを作成します。

「選択音色を読み込」は、現在選択している音色をエディタへ読み込みます。

「ファイルを開く」「ファイル保存」では、音色データの読み込みおよび保存を行います。

中央の波形エディタでは、各ポイントを操作して1周期分の波形を編集します。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

「試聴」では、編集中の波形を実際に再生して確認します。

「クリア」は、編集中の波形を初期状態に戻します。

「反転」は、現在の波形を反転します。

「ユーザー音色登録」では、編集した音色をユーザー音色としてAURA HOSTへ登録します。

下部の「ADSR A / D / S / R」では、音色のアタック、ディケイ、サステイン、リリースを設定します。

TONEタブは、既存音色の選択だけでなく、AURA独自の1周期波形を作成し、ユーザー音色として利用するための編集機能を備えています。

なお、選択した音源エンジンや再生データの仕様によっては、一部の設定項目が使用できない、または設定が反映されない場合があります。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

PCMTONEタブ

PCMTONEタブでは、AURA内部のPCMサンプル音色を管理します。WAVファイルの読み込み、PCMスロットへの登録、ドラム／波形用途の設定、バック保存、Flashへの書き込みなどを行います。

「Open WAV」では、PCM音色として使用するWAVファイルを読み込みます。

「Clear Slot」は、選択中のPCMスロット内容を消去します。

「Load Preset」は、あらかじめ用意されたPCMプリセットを読み込みます。

「Load Pack」「Save Pack」では、複数のPCM音色をまとめたパックデータの読み込み／保存を行います。

「Write Flash」は、現在のPCM構成をAURA本体のFlashへ書き込みます。

「Read Flash」は、AURA本体のFlashに保存されているPCMデータを読み込みます。

「Init PCM Data」は、PCM領域を初期状態に戻す際に使用します。

「Play Drum」は、選択中のPCMデータをドラム音として試聴します。

「Play Wave」は、選択中のPCMデータを波形音源として試聴します。

「Slot」では、編集対象となるPCMスロット番号を選択します。

「Name」では、登録するPCM音色名を設定します。

「Drum」を有効にすると、そのPCMデータをドラム／パーカッション用途として使用します。

「Wave」を有効にすると、そのPCMデータを音程付きのPCM波形として使用します。

「Root」では、Waveとして使用する場合の基準ノートを設定します。

「Vol」「Pan」では、それぞれPCM音色の音量と左右定位を設定します。

「Loop」を有効にすると、指定範囲を繰り返し再生します。

「Start」「End」では、PCMデータの再生範囲またはループ範囲を設定します。

「A / D / S / R」では、PCM音色に対する簡易エンベロープを設定します。

画面中央にはPCM Flashの使用状況が表示されます。現在使用しているスロット数、Drum／Waveの登録数、使用済みデータ容量、パックイメージ容量、残容量などを確認できます。

下部の「Slots」一覧では、各PCMスロットの音色名、再生時間、データサイズ、Drum／Wave設定、Rootノートなどを一覧で確認できます。

「MIDI Assign」では、PCM音色とMIDIノートとの割り当てを設定します。ドラム音源として使用する場合などに、受信したMIDIノートに対してどのPCMスロットを発音させるかを指定します。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

PCMTONEタブは、AURAで使用するPCMサンプルを本体Flashへ登録・管理するための画面です。PCM Flashには容量上限があるため、登録するサンプルの長さやデータ量によって、使用できるスロット数が制限される場合があります。

PCM Flash 容量表示

PCM Flash欄では、AURA本体に登録されているPCMデータの使用状況を確認できます。

「PCM Flash: 12/30 slots」は、現在12スロットを使用しており、最大30スロットまで登録できることを示します。

「Drum 11, Wave 1」は、登録されているPCMデータのうち、ドラム用途が11個、波形用途が1個であることを示します。

「max 2s/slot」は、1スロットあたりのPCMデータ長の上限を示します。

「Used data」は、実際にPCMサンプルデータとして使用している容量を示します。

「Pack image」は、Flashへ書き込むために生成されたPCMパック全体の容量を示します。

「Target」は、PCMデータ用に使用可能なFlash領域の総容量を示します。

「Reserved slack」は、内部管理や書き込み処理のために確保されている予約領域を示します。

下部のバーでは、PCM Flash全体に対する使用量を視覚的に確認できます。

容量上限に近づいた場合は、不要なスロットを削除するか、サンプル長を短くするなどして使用容量を調整してください。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

EXモード

EXモードでは、各チャンネルに対して追加の音声処理や演奏表現を設定します。

LFO、ピッチエンベロープ、ポルタメント、パン、音色変化、波形加工など、通常の音源設定に追加して動的な変化を加えるための機能です。

EX機能を有効にすると、通常再生時よりも追加の演算処理が発生するため、CPU負荷が増加します。複数チャンネルで同時に多くのEX機能を使用した場合は、発音可能数が減少したり、CPU使用率が上昇する場合があります。

安定した再生を行う場合は、AURA CPU%を確認しながら必要な機能のみ有効にしてください。特にCPU使用率が70%を超える状態では、再生品質を保証いたしません。

EXモードでは、対象となる「CH」を選択したうえで、「Move」「Pan」「Tone」「Shape」「Global」の各タブから設定を行います。

Move

Moveタブでは、音程変化に関する追加表現を設定します。LFOによる周期的な音程変化、ピッチエンベロープ、ポルタメントなどを設定できます。

「LFO Enable」は、LFOによる音程変化を有効または無効にします。

「LFO Rate」は、LFOの変化速度を設定します。値を大きくすると、音程変化の周期が速くなります。

「LFO Depth」は、LFOによる音程変化の深さを設定します。値を大きくするほど、音程の揺れ幅が大きくなります。

「PitchEnv Enable」は、ピッチエンベロープ機能を有効または無効にします。

「PitchEnv Amount」は、ピッチエンベロープによる音程変化量を設定します。

「PitchEnv Time」は、現在の音程から目標音程へ変化するまでの時間を設定します。

「PitchEnv Target」は、ピッチエンベロープの目標値を設定します。

「Porta Enable」は、ポルタメント機能を有効または無効にします。

「Porta Time」は、前の音程から次の音程へ滑らかに移動するまでの時間を設定します。

Moveタブの各機能は、選択した音源エンジンや再生データによっては無効になる、または設定が反映されない場合があります。

また、LFO・ピッチエンベロープ・ポルタメントを同時に使用した場合は、音程処理が重なるため、設定値によっては大きな音程変化になる場合があります。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

Pan

Panタブでは、チャンネルの左右定位を自動的に変化させるオートパン機能を設定します。

「AutoPan Enable」は、オートパン機能を有効または無効にします。

「AutoPan Amount」は、左右定位の移動幅を設定します。値を大きくするほど、左右への振れ幅が大きくなります。

「AutoPan Time」は、左右定位が変化する時間または移動周期を設定します。設定値により、ゆっくりしたパン移動から速いパン移動まで調整できます。

オートパンを使用すると、固定された定位ではなく、時間の経過に合わせて音像を左右へ移動させることができます。

設定値や使用する音源エンジンによっては効果が分かりにくい場合があります。また、EX機能のため、使用チャンネル数や設定内容に応じてCPU負荷が増加します。

Tone

Toneタブでは、音色そのものに変化を加える追加処理を設定します。

PWM、フィルター、ワウ、モジュレーション、同期、ユニゾンなどを使用して、通常の音色に動きや厚みを加えることができます。

「PWM Enable」は、PWM処理を有効または無効にします。

「PWM Duty」は、PWM波形のデューティ比を設定します。対応する音源では、値を変更することで音色の明るさや厚みが変化します。

「Filter Mode」は、使用するフィルターの種類または動作モードを設定します。

「Filter Cutoff」は、フィルターのカットオフ周波数に相当する値を設定します。値を変更することで、音の明るさや高域成分の量を調整できます。

「Wah Enable」は、ワウ効果を有効または無効にします。

「Wah Rate」は、ワウ効果の変化速度を設定します。

「Wah Depth」は、ワウ効果のかかり具合を設定します。

「Mod Mode」は、モジュレーション処理の動作モードを設定します。

「Mod Rate」は、モジュレーションの変化速度を設定します。

「Mod Depth」は、モジュレーションの深さを設定します。

「Sync Enable」は、同期処理を有効または無効にします。

「Sync Rate」は、同期処理の速度または周期を設定します。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

「Sync Depth」は、同期処理の効果量を設定します。

「Unison Enable」は、ユニゾン処理を有効または無効にします。

「Unison Detune」は、重ねて発音する音同士の音程差を設定します。値を大きくすると、音に広がりや厚みが加わります。

「Unison Mix」は、元の音とユニゾン音の混合量を設定します。

画面下部の「Apply CH」は、現在選択しているチャンネルに設定を反映します。

「Apply All EX」は、EX設定を対象チャンネル全体へ反映します。

「Init CH」は、現在のチャンネルのEX設定を初期状態に戻します。

「Init All EX」は、全チャンネルのEX設定を初期状態に戻します。

Toneタブの各処理は、使用する音源エンジンによって対応状況が異なります。非対応の音源では設定が無効になる、または効果が反映されない場合があります。

また、PWM、フィルター、ワウ、モジュレーション、同期、ユニゾンなどを複数同時に使用するとCPU負荷が増加します。特にユニゾンや連続的な変調処理は負荷が高くなる場合があるため、AURA CPU%を確認しながら使用してください。

Shape

Shapeタブでは、音色の形状や倍音構成、歪み、フォルマント、波形モーフィングなど、音色そのものを大きく変化させる処理を設定します。

「SID Mode」は、SID系の音色処理モードを設定します。

「SID Drive」は、SID系処理に加えるドライブ量を設定します。値を大きくすると、より強い歪みや質感の変化が加わります。

「SID Mix」は、元の音とSID系処理音との混合量を設定します。

「ARP Enable」は、アルペジオ機能を有効または無効にします。

「ARP Rate」は、アルペジオの切り替え速度を設定します。

「ARP Step1」「ARP Step2」は、アルペジオで使用する音程差またはステップ値を設定します。

「Drive」は、音声信号に歪みを加えるドライブ量を設定します。

「Soft Clip」は、急激なクリッピングを抑えながら、音に軽い飽和感や歪みを加える処理量を設定します。

「Formant Enable」は、フォルマント処理を有効または無効にします。

「Formant Preset」は、使用するフォルマント特性のプリセットを選択します。

「Formant Depth」は、フォルマント効果の深さを設定します。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

「Morph Enable」は、波形モーフィング処理を有効または無効にします。

「Morph Shape」は、モーフィング先の波形形状や変化タイプを設定します。

「Morph Depth」は、元の波形からモーフィング先への程度変化させるかを設定します。

Shapeタブの各機能は、音源エンジンによって対応状況が異なります。非対応の音源では設定が無効になる、または設定しても効果が反映されない場合があります。

また、Drive、Formant、Morph、SID系処理などを複数同時に使用するとCPU負荷が増加します。特に連続的な波形変換やフォルマント処理では負荷が高くなる場合があるため、AURA CPU%を確認しながら使用してください。

Global

Globalタブでは、選択したチャンネル全体に対して追加の合成処理を設定します。

「CH Synth Mode」は、チャンネル合成処理の動作モードを設定します。複数の音源要素や追加処理を組み合わせる際の合成方式を選択します。

「CH Synth Level」は、CH Synth処理によって加えられる音のレベルを設定します。値を大きくするほど、合成された成分の影響が強くなります。

Globalタブの設定は、選択した音源エンジンや再生データによっては無効になる、または効果が反映されない場合があります。

また、CH Synth機能を使用すると追加の演算処理が発生するため、CPU負荷が増加します。複数チャンネルで使用する場合は、AURA CPU%を確認しながら使用してください。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

Playlistタブ

Playlistタブでは、複数の再生ファイルを登録し、一覧から選択して再生したり、連続再生用のリストを管理します。

「Add Files」では、再生したいファイルをプレイリストへ追加します。

「Remove」は、選択した項目をプレイリストから削除します。

「Save List」は、現在のプレイリスト構成を保存します。

「Load List」は、保存済みのプレイリストを読み込みます。

「Clear」は、現在登録されているプレイリストをすべて消去します。

「Play List」は、登録されているプレイリストを順番に再生します。

「Selected loops」では、選択中のプレイリスト項目に対するループ回数を設定します。

「Auto Next」を有効にすると、現在の曲の再生終了後、自動的に次の曲へ進みます。

「Prev」「Next」では、プレイリスト内の前後の項目へ移動します。

「Loops」は、現在再生中のデータに対するループ回数を設定します。

Playlistタブは、複数ファイルをまとめて確認したい場合や、連続再生、比較試聴、動作確認を行う場合に使用します。

再生データの形式や内容によっては、一部の操作が無効になる場合があります。

Phrasesタブ

Phrasesタブでは、曲中の任意区間を開始位置・終了位置として登録し、その区間だけを再生する「曲内ループ」機能を設定します。

最大5個のフレーズスロットを使用でき、それぞれ個別に開始位置、終了位置、ループ有無を登録できます。

「Name」では、選択中のフレーズスロットに任意の名称を設定します。

「Set Start」は、現在の再生位置をフレーズの開始ポイントとして登録します。

「Set End」は、現在の再生位置をフレーズの終了ポイントとして登録します。

開始位置・終了位置は、実際に曲を再生しながら設定するほか、シークバーで任意の位置へ移動してから登録することもできます。

「Loop」を有効にすると、設定したStart～End間を繰り返し再生します。

「Play Slot」は、選択中のフレーズスロットに登録された区間の再生を開始します。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

「Clear Slot」は、選択中のフレーズスロットに登録されている開始位置、終了位置などの情報を消去します。

フレーズ再生中に通常の再生操作を行った場合、またはシークバーを操作して再生位置を変更した場合は、フレーズ再生状態が解除されます。

この機能は、曲の一部分だけを繰り返し確認したい場合や、音色・音源設定の比較、特定区間の動作確認などに使用します。

※PCMにかかわる曲の場合機能いたしません。

WaveMemタブ

WaveMemタブでは、WAVE32で使用する波形メモリデータを管理します。

対応データを読み込んだ際、データ内に含まれるWAVE32用の波形情報を抽出して一覧へ取り込みます。取り込まれた波形データは、アプリケーションを終了するか、「Clear」などで明示的に削除しない限り保持されます。

「Search」では、登録済み波形を名称などから検索します。

「Chip」では、対象となる音源チップまたは波形種別を絞り込みます。

「Extract Loaded」は、現在読み込まれている再生データから波形メモリ情報を抽出します。

「Extract File」は、指定したファイルから波形メモリ情報を抽出します。

「Edit」は、選択した波形データの編集を行います。

「Preview」は、選択した波形を試聴または確認します。

「Save JSON」「Import JSON」では、波形情報をJSON形式で保存・読み込みします。

「Add W32 PRT」「Load W32 PRT」「Save W32 PRT」は、WAVE32用の波形データやプリセットの追加・読み込み・保存に使用します。

「Export W32」「Export CSV」「Export Raw」では、選択した波形データを各形式で書き出します。

「Clear」は、WaveMemに保持されている波形データを消去します。

一覧では、音源種別、波形名、サンプル数、ビット数、チャンネル情報、使用状況、先頭データなどを確認できます。

WaveMemに取り込まれた波形データの中には、ゲーム、楽曲、音源データ等から抽出された著作物が含まれる場合があります。これらのデータに関する著作権その他の権利は、それぞれの著作者または権利者に帰属します。

著作権のある波形データを利用する場合は、原則として個人で楽しむ範囲で使用し、権利者の許諾なく再配布、販売、公開、転載等を行わないでください。

WaveMemによる抽出・保存機能は、第三者が権利を有するデータの無断利用を許可または推奨

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

するものではありません。利用するデータの権利関係および利用条件については、利用者ご自身の責任において確認してください。

Monitorタブ

Monitorタブでは、AURA内部の各チャンネルの発音状態およびレジスタ情報をリアルタイムで確認します。

最大32チャンネル分の状態を表示でき、現在どのチャンネルが発音しているか、どの音程・音量で動作しているかを確認できます。

上段の「Channel Level / Note」では、各チャンネルの基本的な発音状態を一覧表示します。

「CH」はチャンネル番号を示します。

「Note」は現在発音しているノート番号を表示します。

「Vel」はベロシティ値を表示します。

「Vol」は現在の音量値を表示します。

「Gate」は発音中／停止中の状態を表示します。発音中はON、停止中はOFFとして確認できます。

「Wave」は、現在使用している波形または音色情報を表示します。

下段の「Pitch Register Dump」では、各チャンネルに設定されている内部レジスタ値を確認できます。

音源エンジン、ノート、音程、デチューン、ベロシティ、ゲート関連などの値をレジスタ単位で表示するため、通常の再生確認だけでなく、デバッグや動作解析にも使用できます。

Monitorタブは最大32チャンネルすべての状態を監視できるため、複数音源を組み合わせた再生時の確認や、特定チャンネルの発音状態を調査する場合に使用します。

なお、表示内容はリアルタイム更新のため、CPU負荷や再生状況によっては表示更新が遅れる場合があります。

PCM-FM Regタブ

PCM-FM Regタブでは、PCM-FM変換時に参照している元のFM音源データのレジスタ情報を確認します。

表示内容は、読み込んだファイルに含まれるFM音源の種類に応じて変化します。たとえば、YM2151のデータを読み込んだ場合は、画面上に「YM2151」と表示され、YM2151用のピッチレジスタやキーオン関連レジスタが表示されます。

別のFM音源データを読み込んだ場合は、その音源モデルに応じて表示名称や対象レジスタが切り替わります。

「CH」はFM音源側のチャンネル番号を示します。

「PITCH REGISTERS」は、元FM音源で使用されている音程関連のレジスタ値を表示します。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

「KEY REGISTER」は、キーオン・キーオフなどの発音制御に関するレジスタ情報を表示します。

このタブは、PCM-FM変換の動作確認や、元のFM音源データがどのような音程・発音情報を持っているかを確認するためのモニター機能です。

表示されるレジスタ名や構成は、YM2151、YM2612、YM2608など、読み込まれたFM音源の種類によって異なります。

Scaleタブ

Scaleタブでは、再生時に使用する音階(スケール)を変更します。

通常の12平均律による再生だけでなく、メジャー、マイナー、教会旋法、ペントニック、ブルース、地域音階など、あらかじめ用意された各種スケールを選択できます。

選択したスケールに応じて、再生中のノートをその音階構成に沿うよう補正・変換します。

「Normal」は、スケール変換を行わず、元データの音程で再生します。

「Classic / Basic」には、Major、Natural Minor、Harmonic Minor、Melodic Minor、Chromatic、Whole Toneなどの基本的な音階が含まれます。

「Church Modes」には、Ionian、Dorian、Phrygian、Lydian、Mixolydian、Aeolian、Locrianなどの教会旋法が収録されています。

「Pentatonic / Blues」では、Major Pentatonic、Minor Pentatonic、Bluesなどの音階を選択できます。

「Ethnic / Regional」には、日本、中国、沖縄、アイルランド、中東、インドネシアなど、地域的・民族的な音階を収録しています。

各スケール名の右側に表示される音名は、そのスケールを構成する音を示します。

Scaleタブは、元の再生データ自体を書き換えるものではなく、AURAでの再生時に音程を変換する機能です。

選択するスケールによっては、元データとは大きく異なる旋律になる場合があります。また、和音や複雑な楽曲では、必ずしも自然な結果になるとは限りません。

WaveMem 音域選択

WaveMemタブでは、使用する波形メモリの音域を「High」「Normal」「Low」から選択できます。

「High」は高音域向けの波形設定を使用します。

「Normal」は標準音域で使用します。通常はこちらを選択します。

「Low」は低音域向けの波形設定を使用します。

再生する音程や波形データによって適した設定が異なるため、必要に応じて切り替えて使用してください。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

選択した音域によって、同じ波形でも再生時の質感や高域・低域側の再現性が変化する場合があります。

Device Settings

「Settings」から「Device Settings」を開くと、AURA本体との接続設定およびMIDI入力に関する設定を行えます。

最初に表示される「Device」タブでは、USB接続先、MIDI入力デバイス、MIDI入力モード、入力チャンネル、各種MIDIコントロールの有効／無効を設定します。

「USB Device」では、AURA本体が接続されているCOMポートを選択します。

「Refresh」は、接続可能なUSBデバイス一覧を再取得します。

「Connect / Disconnect」では、選択したAURA本体との接続・切断を行います。

「Auto Connect on startup」を有効にすると、AURA HOST起動時に前回使用したAURA本体への自動接続を試みます。

「MIDI Device」では、使用するMIDI入力デバイスを選択します。

「Enable MIDI Input」を有効にすると、選択したMIDIデバイスからの入力をAURA HOSTで受信します。

MIDI Device Input Settings

「Input Mode」では、MIDI入力の動作モードを選択します。

「MIDI Keyboard Mode (OMNI)」では、受信したMIDIノートをキーボード演奏用として扱い、MIDIチャンネルに関係なく入力を受け付けます。

「Keyboard Route」には、現在MIDIキーボード入力が割り当てられているAURA音源構成が表示されます。

「Keyboard Tone」の「Follow CH1 settings」を有効にすると、MIDIキーボード演奏時の音色設定をAURA CH1の設定に追従させます。

MIDI Input Channels

MIDI入力モードを使用する場合、受信対象とするMIDIチャンネルをCH1～CH16から選択できます。

「All On」は全チャンネルを有効にします。

「All Off」は全チャンネルを無効にします。

入力モードによっては、この設定項目が使用できない場合があります。

MIDI Input Control Filter

MIDI入力時に、どの種類の情報をAURAへ反映するかを設定します。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

「Enable source filter」を有効にすると、下記のフィルター設定が適用されます。

「Velocity」は、MIDIノートのベロシティ情報を受け付けます。

「Expression」は、Expression情報を受け付けます。

「Volume」は、MIDI Volume情報を受け付けます。

「Drum CH10」は、MIDI CH10をドラムチャンネルとして扱います。

「Tone」は、音色変更に関する情報を受け付けます。

「Ignore next Prog」は、Program Changeに関する制御に使用します。

「All On」「All Off」では、コントロールフィルターを一括で有効／無効にできます。

「Edit CC...」では、MIDI Control Change (CC) の受信対象を個別に設定します。

Device Settingsは、AURA本体との接続および外部MIDI機器を使用する場合の基本設定画面です。通常は最初にUSB DeviceでAURA本体を選択し、必要に応じてMIDI入力機能を設定します。

接続方法

AURA HOSTからAURA本体およびMIDI機器を使用する場合は、以下の手順で接続してください。

AURA本体の接続

AURA本体とPCをMicro USB通信ケーブルで接続します。

AURA HOSTを起動し、「Settings」から「Device Settings」を開きます。

「USB Device」からAURA本体が接続されているCOMポートを選択します。

AURA本体を新規に接続した場合や、接続先を変更した場合は、一度AURAとの接続を切断します。

AURA本体を再起動します。

AURA HOST上で「Disconnect」を実行した後、「Connect」を実行して再接続します。

USB Device一覧にAURAが表示されない場合は、「Refresh」を実行してデバイス一覧を更新してから、対象のCOMポートを選択してください。

「Auto Connect on startup」を有効にすると、AURA HOST起動時に前回使用したAURA本体への自動接続を試みます。

MIDIデバイスの接続

使用するMIDI機器をPCへ接続し、Windows上で認識されていることを確認します。

「Device Settings」の「Device」タブを開きます。

「Enable MIDI Input」を有効にします。

MIDIデバイス一覧を更新します。

「MIDI Device」から使用するMIDI機器を選択します。

必要に応じて「Input Mode」「MIDI Input Channels」「MIDI Input Control Filter」などを設定します。

MIDIデバイスを新しく接続した場合は、MIDI入力を有効にした後でデバイス一覧を更新し、対象機器を選択してください。

接続できない場合

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

AURA本体またはMIDIデバイスが認識されない場合は、USBケーブルの接続、Windows側のデバイス認識状態、使用しているCOMポートやMIDIデバイスの選択内容を確認してください。

AURA本体を再接続する場合は、「切断 → AURA本体再起動 → Disconnect → Connect」の順で操作してください。

通信が不安定な場合は、USBハブを介さずPC本体のUSBポートへ直接接続することを推奨します。

MIDI File Filter タブ

「MIDI File Filter」タブでは、MIDIファイルを読み込む際に、どのMIDI情報をAURAへ反映するかを設定します。

「Enable source filter」を有効にすると、MIDIファイル内の各種制御情報に対してフィルター設定を適用します。

「Velocity」は、ノートごとのベロシティ情報を反映します。

「Expression」は、Expression情報を反映します。

「Volume」は、MIDI Volume情報を反映します。

「Drum CH10」は、MIDI CH10をドラムチャンネルとして扱います。

「Tone」は、音色変更に関する情報を反映します。

「Ignore next Prog」は、Program Changeに関する制御を行うための設定です。

「MIDI File Import Channels」では、MIDIファイルから読み込むチャンネルをCH1～CH16の中から選択します。

「All On」は全チャンネルを有効にし、「All Off」は全チャンネルを無効にします。

不要なチャンネルを無効にすることで、特定パートだけをAURAへ取り込んで再生することができます。

「MIDI File Control Change (CC)」では、MIDIファイルに含まれるControl Change情報の読み込み対象を設定します。

「All On」はすべてのCCを有効にし、「All Off」はすべてのCCを無効にします。

「Edit CC...」では、読み込むControl Change番号を個別に設定できます。

画面下部には、現在のCCフィルター状態が表示されます。

このタブの設定は、MIDIファイル読み込み時に適用されます。フィルター設定によっては、元のMIDIファイルに含まれる音量変化、音色変更、演奏表現などが再現されない場合があります。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

Systemタブ

Systemタブでは、AURAの音源ごとの出力ゲイン、PCM関連設定、内部処理、音源クロック補正など、動作全体に関わる設定を行います。

「DAC Gain」では、APG、WAVE32、SID、ORG、PCM、OPM、OPL、OPN系、DPCM、DDA、VGM PCMなど、各音源エンジンごとの出力レベルを個別に調整します。音源ごとの音量差を補正するための設定です。

「APG Source Gain」「WAVE32 Source Gain」では、元音源ごとの入力ゲインを調整します。SN76489、AY/YM2149、NES APU、HuC6280、SCCなど、変換元となる音源ごとに補正値を設定できます。

「Preset PCM Rhythm Tone Gain」では、内蔵PCMパーカッション音源の音量バランスを調整します。Kick、Snare、Tom、Hi-Hat、Cymbal、Rim、Clapなどを個別に設定できます。

「PCM Definition」では、PCM音源で使用する定義ファイルを指定します。「Browse」でファイルを選択し、「初期状態」で標準設定へ戻します。

AURA Internal Processing

「Device LED」は、AURA本体のステータスLED制御を設定します。

「Turn off while connected」を有効にすると、AURA HOST接続中に本体のステータスLEDを消灯します。LEDの点灯・更新に伴うCPU側のスイッチング動作を抑え、オーディオ系へ回り込むノイズを低減する目的で使用します。

この機能を有効にしている間は、接続中のステータスLED表示が行われなため、本体の動作状態はAURA HOST側で確認してください。

「PCM Align ms」では、PCM再生のタイミング補正値を設定します。

「FM VGM」「OPLL PCM」「OPL PCM」「PCM-FM」では、対応するFM音源データをAURA内部のPCM/FM変換機能で処理するかを設定します。

「C352」は、C352のサンプルROM再生に使用する処理方式を設定します。

「PCM Upconvert」を有効にすると、低サンプリングレートのPCMデータをホスト側で44.1kHzへアップコンバートします。

「Filter」を有効にすると、波形メモリ再生時の品質改善用フィルターを使用します。

「Wave Quality」では、波形再生時の品質設定を選択します。設定を高くすると音質が向上する一方、CPU負荷が増加する場合があります。

Chip Frequency Trim

「Chip Frequency Trim」では、各音源チップの再生周波数をセント単位で微調整します。

元データのクロック差、実機との差異、ゲーム機や基板ごとの音程差などを補正するために使用

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

します。

対象にはSN76489、AY/SSG、YM2203、YM2608、YM2610/B、YM2413、YM2151、Game Boy、NES APU、HuC6280、SCC、OKIM6295、SegaPCM、C140、C352などがあります。

値を「0」にすると補正なしとなり、正の値では音程が高く、負の値では低く補正されます。

Settings File

画面下部には、AURA HOSTの設定ファイル保存先が表示されます。

「Delete Settings File」を実行すると、保存されている設定ファイルを削除できます。設定異常が発生した場合や、AURA HOSTを初期設定の状態へ戻したい場合に使用します。

設定ファイルを削除すると、ユーザーが変更した各種設定も失われるため、必要に応じて設定内容を確認してから実行してください。

Raw Sender

Raw Senderは、AURA本体へ直接コマンドを送信するための、開発・動作確認用ツールです。

通常の使用では、主に各音源エンジンの基本発音テスト、およびAURA本体のリセットに使用します。

画面上部の入力欄からAURAへ任意のRAWコマンドを直接送信できますが、コマンドの詳細については本取扱説明書では扱いません。コマンド仕様、データ形式、レジスタ操作等については、別冊の「AURA Engineering Book」を参照してください。

「Minimal Tone」は、最小構成による基本的な発音確認を行います。

「Wave Test」「PWM Test」「SID Test」「Organ Test」「PCM Test」では、それぞれの音源エンジンが正常に発音できるかを確認します。

「EFX Test」「EFX CH Test」は、EX／エフェクト関連機能の動作確認に使用します。

「Stop Tone」は、テストで発音している音を停止します。

「Engine Reset」は、AURAの音源エンジンをリセットします。音源設定や発音状態に異常が発生した場合の復帰にも使用します。

「CPU Reset」は、AURA本体のCPUをリセットします。本体を再起動する必要がある場合に使用します。

「Send Raw」は、入力欄に記述したRAWコマンドをそのままAURA本体へ送信します。この機能は開発・検証用途を想定しているため、コマンド内容を理解している場合のみ使用してください。

不正なコマンドや想定外の値を送信すると、発音停止、設定異常、通信切断などが発生する場合があります。通常利用では、基本発音テストとEngine Reset／CPU Resetを中心に使用してください。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		

Serial Log

Serial Log画面では、AURA HOSTとAURA本体の通信内容や再生時の内部処理状況を確認できます。

主に動作確認、通信確認、不具合発生時の原因調査、開発・デバッグ用途で使います。

「Realtime Log」を有効にすると、通信内容や内部処理のログをリアルタイムで表示します。

「PLAY Summary」は、再生処理に関する概要ログを表示します。

「PLAY Detail」は、再生処理の詳細情報を表示します。

「PLAY Raw TX/RX」は、再生時に送受信されるRAWデータを表示します。

「All TX/RX」は、AURA HOSTとAURA本体間で送受信される通信内容を広範囲に表示します。

「1ms Flush」は、ログ表示の更新間隔を細かくするための設定です。有効にするとログ更新頻度が上がるため、通常時よりCPU負荷が増加する場合があります。

「Save Snapshot」は、現在表示されているログ内容を保存します。不具合発生時の記録保存や、開発者への情報提供に使用します。

「Copy Text」は、現在のログ内容をクリップボードへコピーします。

ログ表示欄には、LOAD、OK、再生状態、チャンネル情報、各音源エンジンの状態、送受信データなどが時刻付きで表示されます。

通常利用では常時表示する必要はありません。問題が発生した場合や、AURA本体との通信状態を確認したい場合に使用してください。

詳細なログ内容やRAW通信データの解析方法については、別冊の「AURA Engineering Book」を参照してください。

おわりに

LAVIOR AURAは、現在も継続して開発・改良を行っている機器です。

そのため、使用環境や再生データ、各種設定の組み合わせによっては、意図しない動作や未調整の挙動が発生する場合があります。

確認された問題については、今後の更新や改良の中で順次見直しを行い、より安定して使いやすい環境を目指して改善を続けていきます。

また、仕様や機能についても、今後の開発状況に応じて変更・追加される場合があります。

本機器が一時的な製品ではなく、長く使い続けられる音源環境となるよう、今後も開発を継続していく予定です。

LAVIOR AURAを末永くご利用いただければ幸いです。

はんどめいどふぁくとり https://hmfactory.jp/aura/	Date 10th-Sep-2026	Revision 01	
	Reference Document LAVIOR AURA		